

## 施設見学

Aコース ゆいの森あらかわ（荒川区）

Bコース 北区立中央図書館（北区）

Cコース 武蔵野プレイス（武蔵野市）

### ゆいの森あらかわ

ゆいの森あらかわは、平成29年3月、荒川区立中央図書館、吉村昭記念文学館、ゆいの森子どもひろばが一体となった融合施設としてオープンした。

受講者は、初めに、多目的スペース「ゆいの森ホール」にて、館内のイメージ映像と、開館以降実施した主なイベントをまとめた映像を視聴した。映像から、多様なイベントを通して、区民の交流の場、文化の拠点づくりを目指す様子をうかがうことができた。

館内見学では、書庫を含め、全館を見学した。5階建ての各フロアは、ゆるやかにゾーニングされており、絵本館や遊びラウンジ、託児室のある1階では、のびのびと過ごす子どもたちが見受けられた一方、上層階では、静かに読書や研究に励む大人が見受けられるなど、多様な利用者ニーズについて考えられた設計と運営の工夫を知ることができた。子どもを遊びから学びへと導く「体験キット」など、オリジナリティある取組が参加者の関心を特に集めていた。

### 北区立中央図書館

北区立中央図書館は、旧陸軍が使用していた赤レンガ倉庫の建物を活かした3階建ての図書館単独施設として、平成20年6月に開館した（通称“赤レンガ図書館”）。ユニバーサルデザインを採用し、環境へも配慮した施設は、2009グッドデザイン賞を受賞している。

施設見学では、館内PRビデオを視聴後、1階総合フロア、2階こども図書館、3階区民活動コーナーのほか閉架書庫や作業室などを2グループに分かれて見学した。

同館の特色として、北区の情報を集めた「北区の部屋」と「ドナルド・キーンコレクション」が挙げられる。「北区の部屋」では、事業を担当する地域資料専門員から、区史編纂や副読本作成、展示・講演会実施、PR誌発行など幅広い活動について、直接話を伺うことができた。

また、図書館活動区民の会が5つの部会に分かれて活発に活動しており、同館がコンセプトの一つとしている「『区民が活動する』図書館」が実践されている様子が窺えた。

施設・設備面、サービス面で施された様々な工夫に対して受講者の関心は高く、見学中や見学後の質疑応答では多くの質問が寄せられた。

### 武蔵野プレイス

武蔵野プレイスは、地上4階地下2階の6フロアに、図書館機能、生涯学習支援機能、青少年活動支援機能、市民活動支援機能の4つの機能を併せ持った複合施設として、平成23年7月にオープンした。全体に丸みを帯びたデザインで統一された建物は、平成28年に日本建築学会賞を受賞している。

図書館の蔵書数は約17万冊、雑誌所蔵タイトル数約600タイトル、年間貸出件数約100万件で、利用者の様々なライフステージに対応した滞在型の図書館として、他の機能と連携しながら、ビブリオバトルや映画会、おはなし会等の事業を行っている。

施設見学では、会議室で施設紹介のビデオを見た後、見学者19名が2班に分かれ見学を行った。青少年の居場所づくりを目的として設けられたティーンズスタジオ、生活関連の図書を集めたテーマライブラリー、市民活動の支援を行うワークラウンジ等、6フロアを約1時間かけて見学した後、残りの15分ほどを自由見学の時間とした。見学後は会議室に戻り、質疑応答の時間を設けたが、サービス面や建物の設計、施設の配置について等、数多くの質問が寄せられた。



▲ゆいの森あらかわ